

簡単なマガキの天然採苗技術を開発

中小マガキ養殖生産地では、主に宮城県や広島県などから天然種苗を購入していますが、災害時や種苗があまり採れない時には、価格や供給などに影響します。

そこで、生産地ごとに自前で種苗を確保する「地場採苗」支援のため、一粒ごとに分かれたシングルシードのマガキ種苗を簡単に確保できる技術を開発しました。これは、カキ殻を粉碎・加工した固形物を養殖カゴなどに入れ、潮間帯*に置いて天然のマガキ稚貝を付着させて種苗を採るものです。

天然採苗に必要な浮遊幼生や稚貝の出現状況の調査は不要なので、中小の生産地でも活用でき、種苗確保の安定化に貢献できます。また、このシングルシード

ドは、付加価値の高い生食用の殻付きカキの生産にも適しているため、収益性の改善にもつながるものと期待されます。

カキ殻加工固形物を用いたマガキの天然採苗のしくみ

1 カキ殻加工固形物を入れた養殖カゴを設置



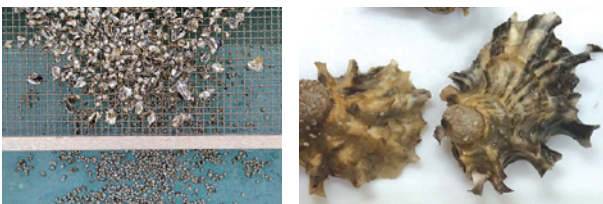
養殖カゴなどにカキ殻加工固形物を入れ、潮間帯に置いてマガキ稚貝の付着を待ちます。

2 マガキ稚貝が付着し、成長



潮間帯に置くことで、海水に常時つかっている場合より汚れが少なくなり、長期にわたって採苗が可能です。

3 マガキ種苗を採取



固形物に付着したマガキは、ある程度育ってからふるいで選別します。種苗が付着していない固形物は、次の採苗に再利用できます。

4 マガキ種苗を選別



選別したマガキ種苗は養殖カゴに入れて、いかだなどに吊るして養殖し、大きく育てます。

* 潮間帯：潮の満ち引きにより露出と水没を繰り返す場所

※本技術は、水産研究・教育機構、三重県水産研究所、鳥羽磯部漁業協同組合・浦村アサリ研究会、ケアシェル（株）が、農林水産業・食品産業科学技術研究推進事業委託事業「新技術による地場採苗を活かしたマガキ養殖システムの開発」で開発したものです。